

2013年度 第2四半期決算説明会

2013年11月6日

 **不二製油株式会社**

代表取締役社長 清水 洋史

目次

I . 2013年度 第2四半期決算概要

II . 2013年度 業績予想

III . 新中期経営計画 策定の考え方

I . 2013年度 第2四半期決算概要

第2四半期 事業環境

経済環境

- 欧米 アメリカ経済は回復基調に
- アジア 中国経済発展スピードの鈍化、その他新興国も経済減速
- 日本 アベノミクス効果等で、株価上昇効果見られるも、一般消費者まで届かず、一部 高額品の消費活況を除いて、総じて横ばい続く

国内食品業界

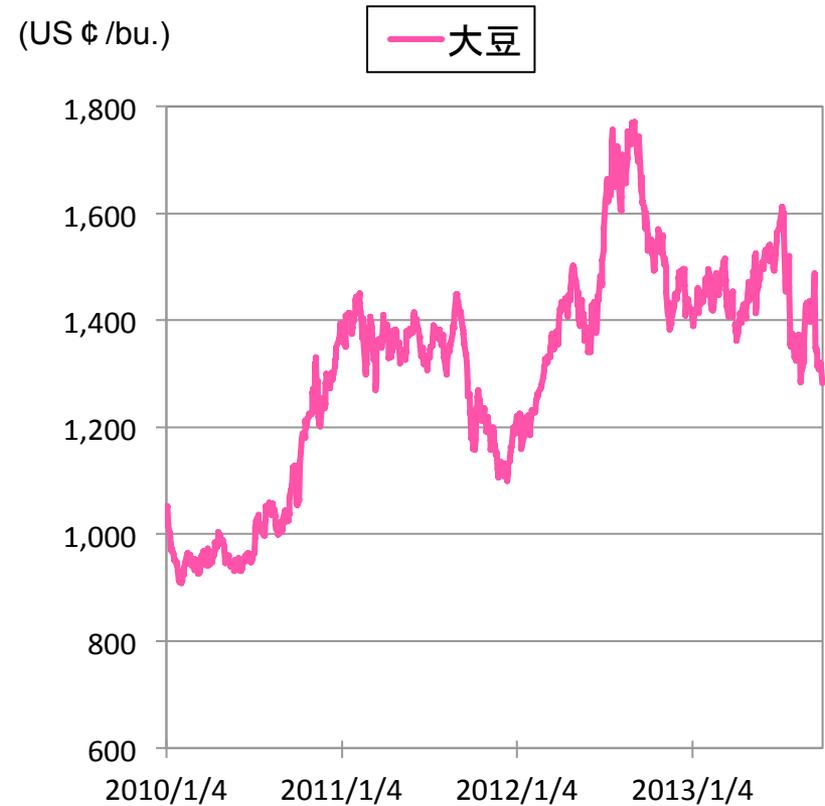
- 円安の進行に伴う、原料コスト増で 一部企業は製品値上げ実施
- コンビニは増加傾向持続だが、スーパーなどの小売では売上微減
- 外食産業は、売上・客単価とも ほぼ横ばい続く

原料相場

- パーム油相場は安定推移、大豆は昨年下期以降 高値圏で推移

第2四半期 事業環境 ②原料相場

原料相場推移 (2010年1月～)



第2四半期 連結決算概要

- 売上高は1,186億円で、対前年+70億円の増収。但し、円安換算による影響が大きい。
- 営業利益は64億円で、対前年+8億円の増益。大豆たん白部門は円安に伴う原価上昇により減益したが、油脂、製菓・製パン素材でともに増益。

(単位:億円)

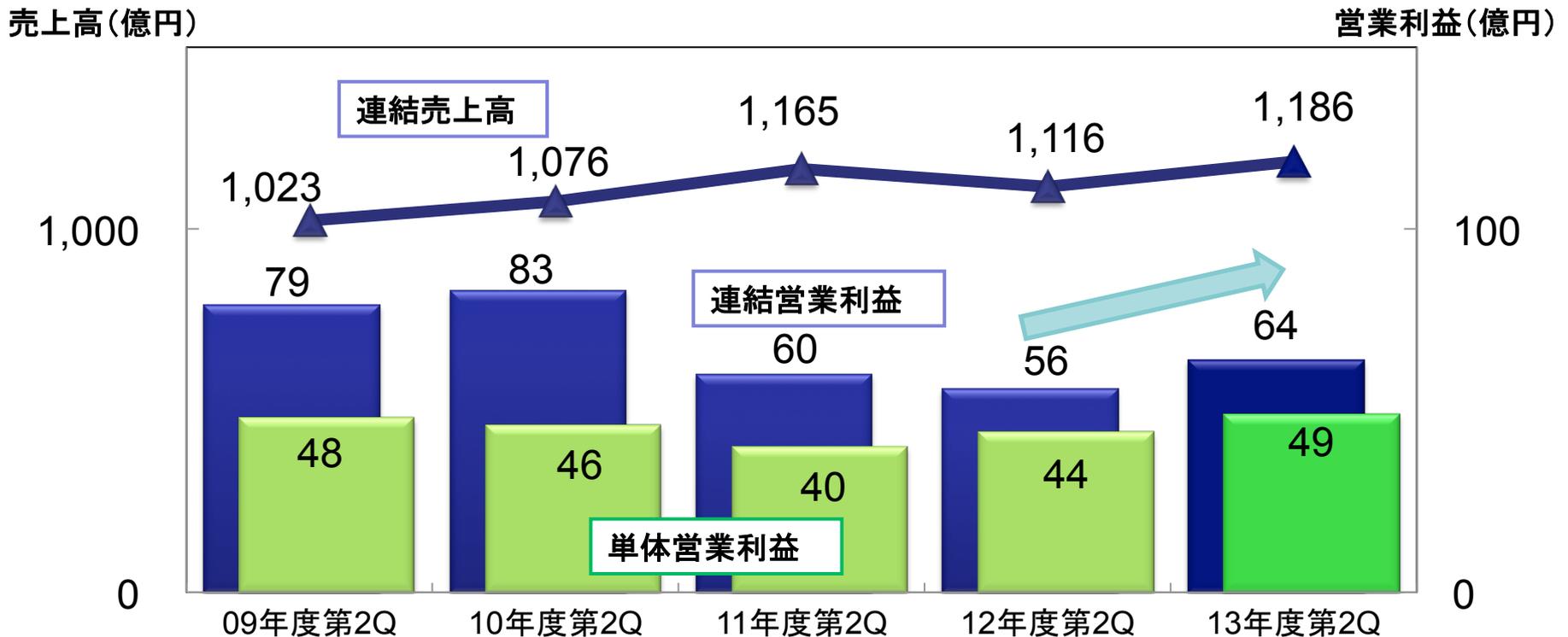
		12年度 第2 四半期	13年度 第2 四半期	対前年同期		期初予想 (13/5/9)	対予想比
				増減額	増減率		
売上高	油脂	438	478	+40	+9.2%	526	▲48
	製菓・製パン素材	496	515	+20	+4.0%	524	▲9
	大豆たん白	182	193	+11	+5.8%	198	▲5
	合計	1,116	1,186	+70	+6.3%	1,248	▲62
営業利益	油脂	12	17	+5	+39.2%	16	+1
	製菓・製パン素材	36	42	+6	+16.4%	40	+2
	大豆たん白	8	5	▲3	▲34.9%	8	▲3
	合計	56	64	+8	+14.3%	64	+0
営業利益率		5.0%	5.4%	+0.4p	-	5.1%	+0.3p
経常利益		54	64	+9	+17.3%	62	+2
当期純利益		32	39	+7	+20.8%	38	+1

注)本資料は全てのページで億円未満を四捨五入しております。

第2四半期

連結売上高・連単営業利益 推移

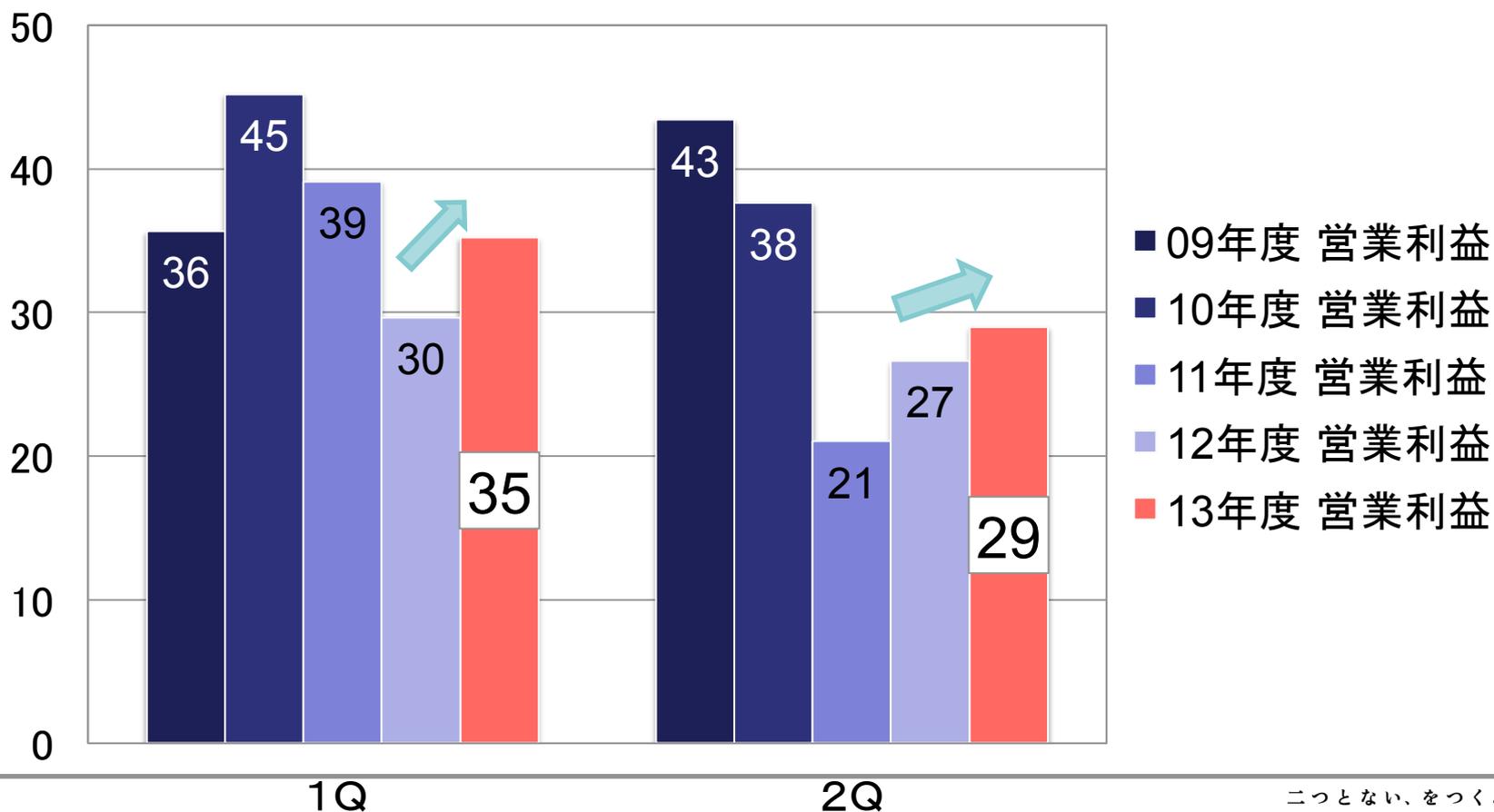
- 営業利益は連結・単体とも前年同期を上回る



連結 第1、2四半期営業利益推移

- 第1Qに比べ、第2Qの増益率は 単体の原価上昇でやや鈍化

(億円)



第2四半期 営業利益分析

2012年度
第2四半期

+8億円

2013年度
第2四半期

実績
56億円

売上総利益増加

+20億円

拡販要因	: 国内及び海外の製菓・製パン	+11億円
コストダウン	: 国内廃棄損削減、歩留り向上	+ 6億円
原価上昇要因	: 油脂では原価低減、主にたん白 で原価上昇をカバーできず	▲ 7億円
海外事業 為替要因	:	+10億円

販管費増加(▲は費用の増加)

▲12億円

海外事業 為替要因	:	▲8億円
発送費等	:	▲4億円

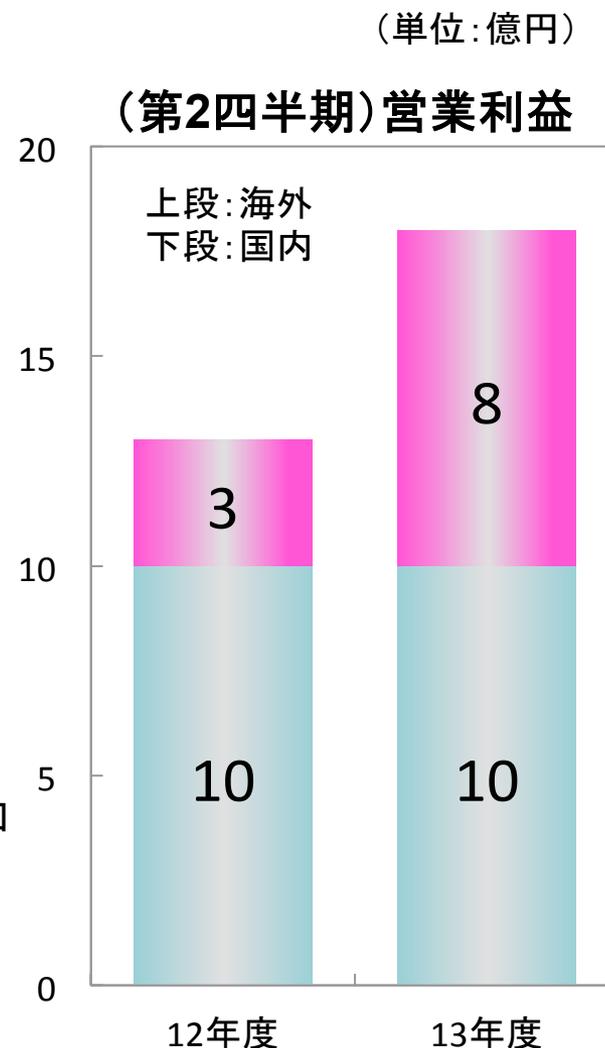
実績
64億円

油脂部門 実績

連結	12年度 第2 四半期	13年度 第2 四半期	対前期	
			増減額	増減率
売上高	438	478	+40	+9.2%
営業利益	12	17	+5	+39.2%

【業績サマリー】

- 国内市場は、ヤシ油・パーム油等の主要原料価格下落による販売価格の低下、並びに販売数量減少により、減収・やや減益。
- 海外市場では、チョコレート用油脂の欧米での販売数量増加により増収。また円安による円換算の増加も寄与し、増収・増益。

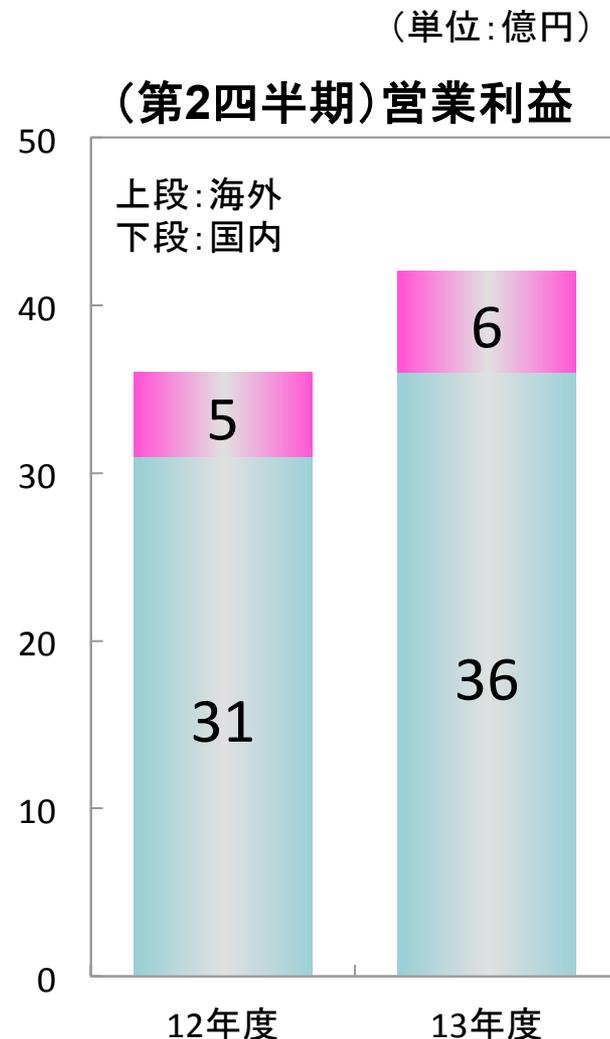


製菓・製パン素材部門 実績

連結	12年度 第2 四半期	13年度 第2 四半期	対前期	
			増減額	増減率
売上高	496	515	+20	+4.0%
営業利益	36	42	+6	+16.4%

【業績サマリー】

- 国内市場では、業務用チョコレートのスイートチョコ・アイスコーティングチョコ・カラーチョコでの販売が増加、クリームはデザート・飲料向け、フィリングはパン用の販売が増加し、増収。国内全体では増収・増益。
- 海外市場では、業務用チョコレート・クリーム・マーガリン・ショートニングの東南アジアでの好調に推移し、増収・増益。

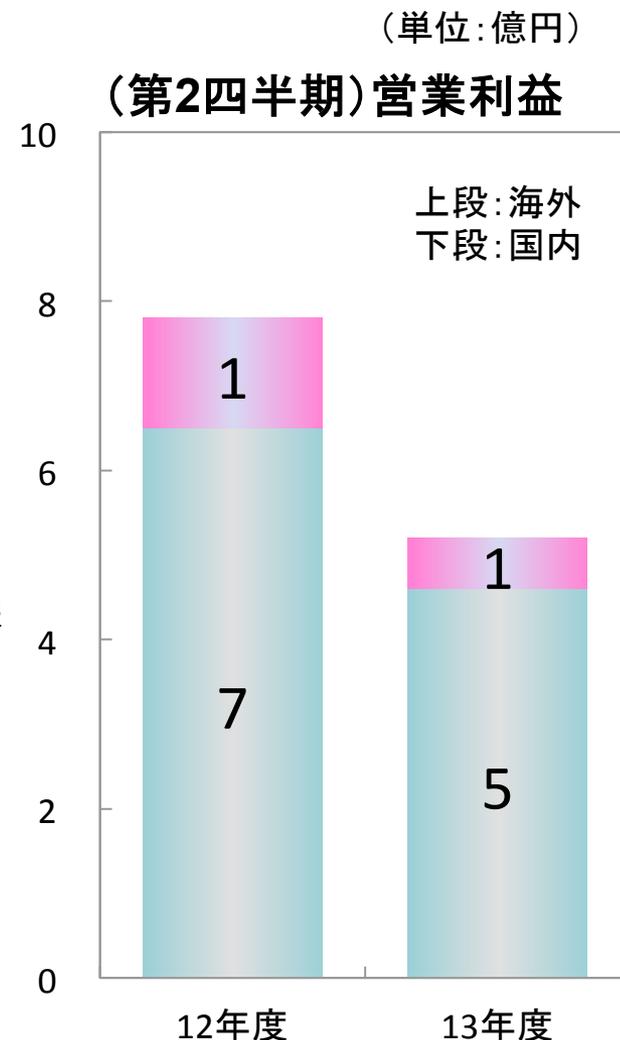


大豆たん白部門 実績

連結	12年度 第2 四半期	13年度 第2 四半期	対前期	
			増減額	増減率
売上高	182	193	+11	+5.8%
営業利益	8	5	▲3	▲34.9%

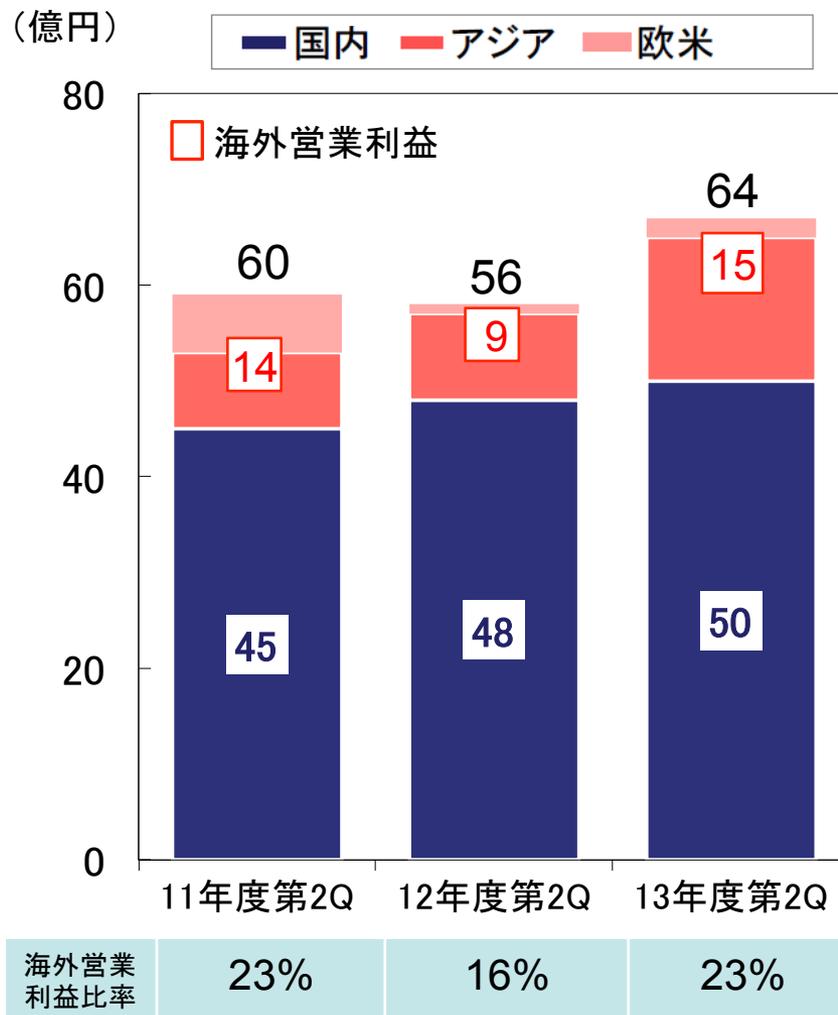
【業績サマリー】

- 大豆たん白素材は冷食・惣菜・健康食品・発酵培地用途が増加し増収となったものの、円安による原料価格上昇の影響で減益、たん白部門全体も減益。
- 大豆たん白機能材は、飲料・発酵培地用途・輸出が増加し、増収・増益。
- 大豆たん白食品は、即席麺用途で減少したが、中国での販売が増加し、増収・増益。



地域別 セグメント別 営業利益

(億円)	13年度 第2Q実績	対前年
日 本	50	+2
油脂	9	±0
製菓・製パン素材	36	+4
大豆たん白	4	▲2
アジア	15	+6
油脂	7	+6
製菓・製パン素材	7	+1
大豆たん白	1	▲1
欧 米	2	+1
油脂	2	+1
消 去	▲2	▲1
合 計	64	+8



Ⅱ. 2013年度 業績予想

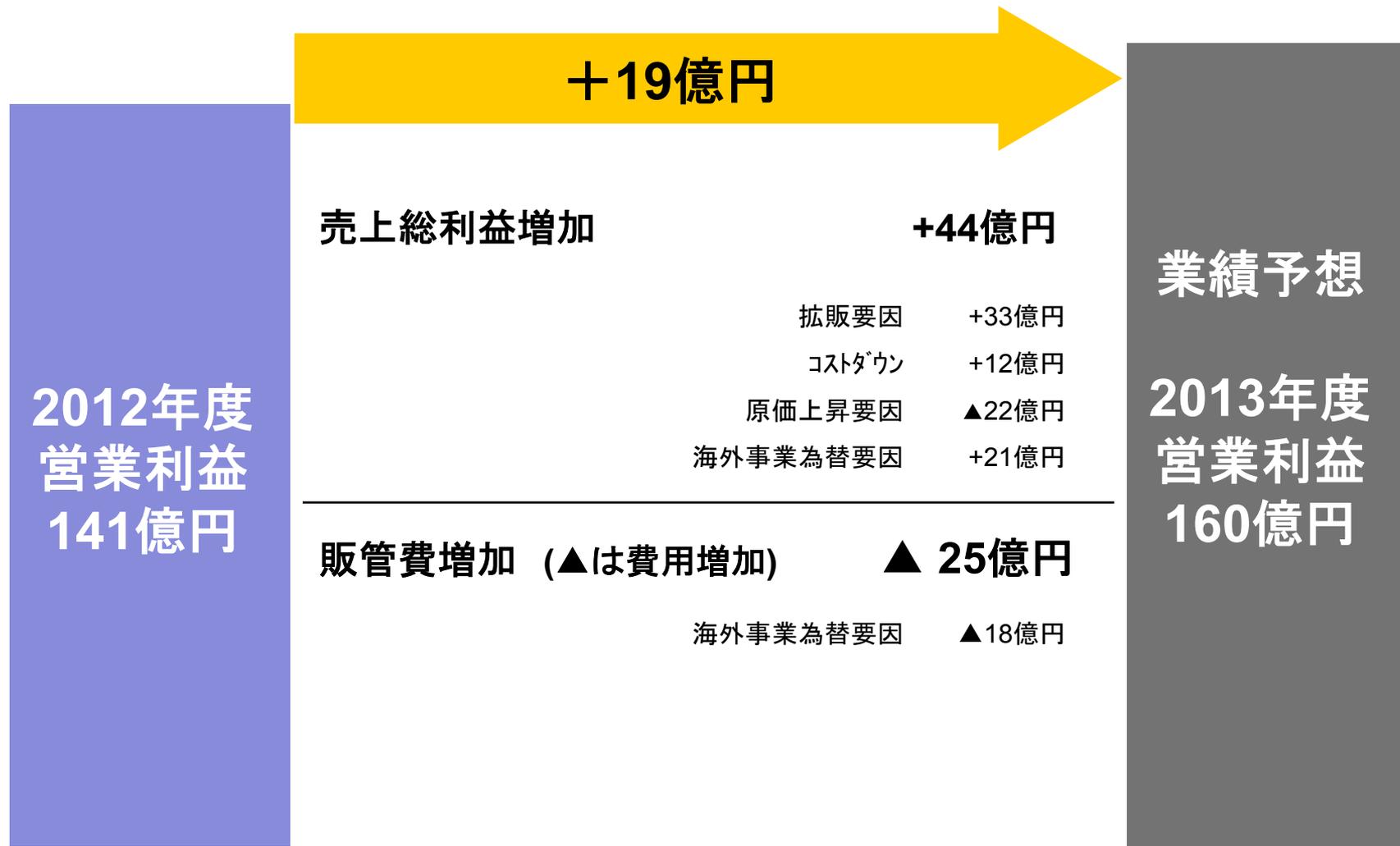
2013年度 年間業績予想

- 今年5月の期初「年間業績予想」と 売上高・営業利益の総額変更なし
- セグメント別の内訳は、大豆たん白が減益となり、油脂でカバー

(単位:億円)

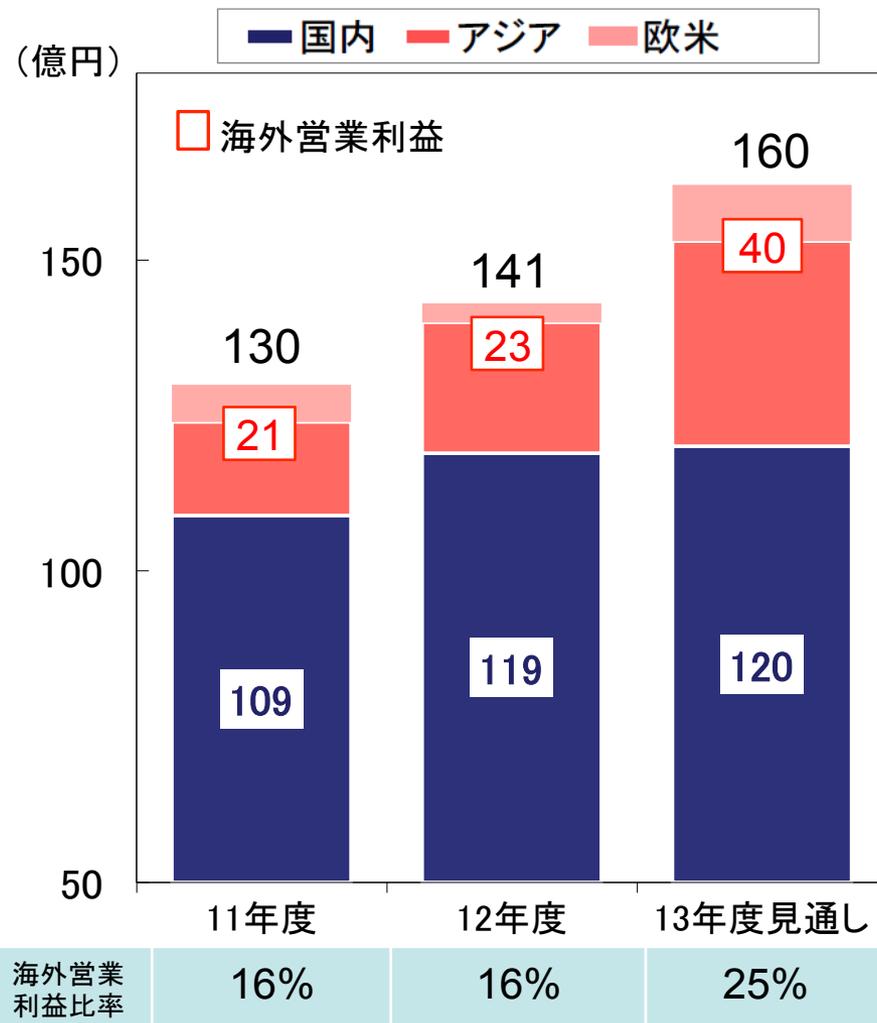
		連結			
		13年度 年間予想	対前年	増減率	5月期初予想 との差
売上高	油脂	1,110	+201	▲0.6%	▲7
	製菓・製パン素材	1,138	+94	+1.4%	+16
	大豆たん白	400	+31	+2.2%	▲9
	合計	2,648	+326	-	-
営業利益	油脂	46	+13	+12.2%	+5
	製菓・製パン素材	103	+10	-	-
	大豆たん白	11	▲4	▲31.3%	▲5
	合計	160	+19	-	-

2013年度 営業利益予想分析(対前年)



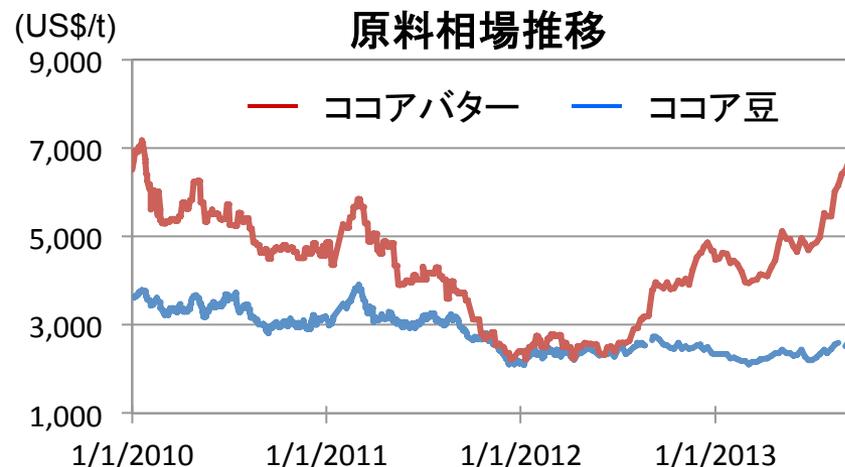
2013年度年間 地域別・セグメント別 営業利益

(億円)	13年度 通期見通し	対前期
日 本	120	+1
油脂	24	▲2
製菓・製パン素材	90	+7
大豆たん白	7	▲4
アジア	33	+12
油脂	13	+10
製菓・製パン素材	16	+2
大豆たん白	4	0
欧 米	9	+6
油脂	9	+6
消 去	▲2	▲1
合 計	160	+19



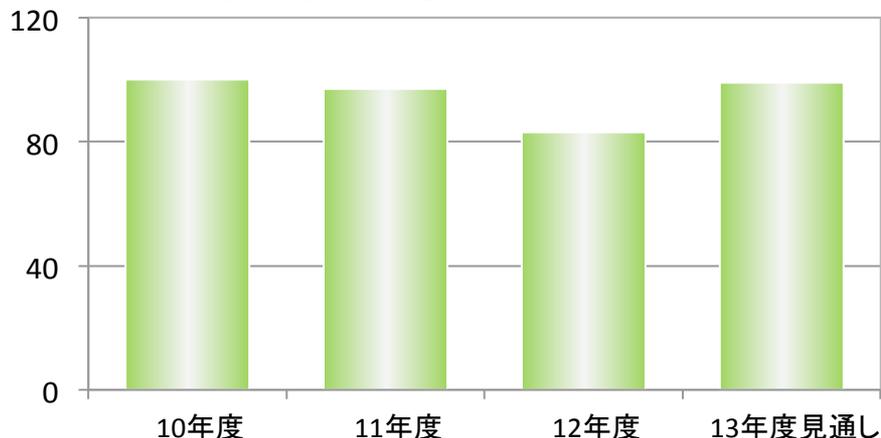
2013年度年間 ①CBE

- 海外販売数量は回復基調
- ココアバター相場の急騰はあるが、CBE販売価格には まだ影響表れず



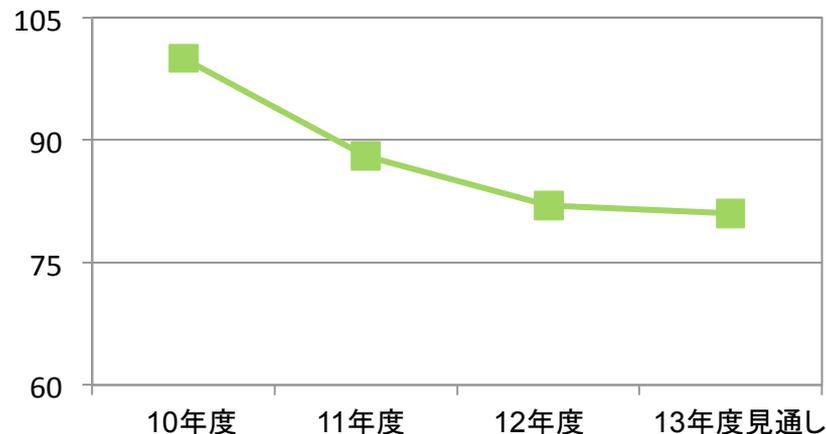
CBE販売数量(海外)

* 2010年度平均の数字を100とする



CBE販売価格(海外)

* 2010年度平均の数字を100とする



2013年度年間 ②アジア向け製菓・製パン素材

アジア向け製菓・製パン素材

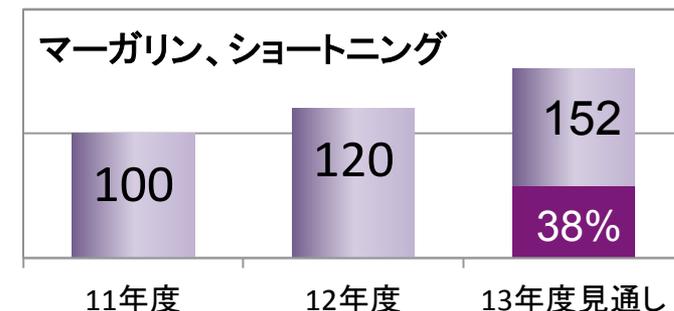
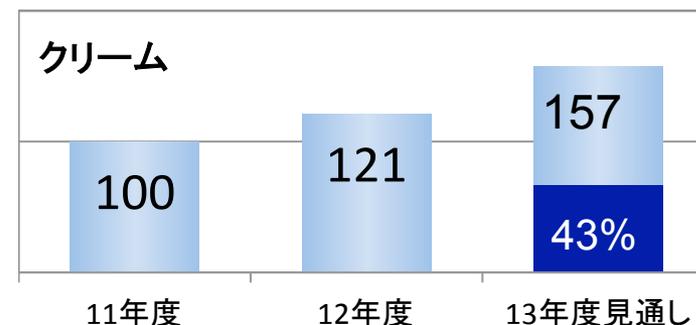
■ 東南アジア(シンガポール)の地域統括会社を中心にアジア向けに拡販

- ・チョコレート(インドネシア、中国)
- ・クリーム (シンガポール、中国)
- ・マーガリン、ショートニング
(シンガポール、タイ、中国)

■ 10月に中国/北京にプラザ開設(上海・広州に続く)

■ インドに現地企業との合併会社の設立計画中

*11年度の販売数量 100とする、%は第2Qの進捗率



2013年度年間 ③大豆ルネサンス

・USS事業

★「和食」が世界の無形文化遺産に登録見込み

- ⇒ ・和食のおいしさを再認識
・日本から世界へ発信できる 新しいチャンスが広がる

【素材用途】

・低脂肪豆乳・・・大豆の美味しい発酵飲料・食品

和菓子用の新素材

高齢者・美容・健康用途向け

・豆乳クリーム・・・調理用の新しいクリーム

和系の新クリーム素材

野菜・果汁・コーヒーの新規食品サポート食材

低脂肪豆乳使用例



白菜と豚バラの
ミルフィーユ鍋



豆乳抹茶
ロールケーキ



和風パannaコッタ

豆乳クリーム使用例

USSの製法

乳・卵に準じた
〈世界初のUSS

分画を大豆で実現
製法 特許取得〉

食 材	貯蔵たん白画分	リポたん白画分	分画法
 <p>卵</p>	→ 卵白 +	卵黄	割卵後 分別
 <p>牛乳</p>	→ 脱脂乳 +	生クリーム	軽い遠心分離
 <p>大豆</p>	→ 低脂肪豆乳 +	豆乳クリーム	新開発USS製法

2013年度年間 ④高齢者向け市場

高齢者向け市場への取組み

- ・ 国内の少子高齢化社会到来に備え、
新たな市場として「元気なシニア市場」を創出していく。

高齢者層の方々は必要な栄養分が不足しやすいので、
高たん白、高油分(高エネルギー)の食品の積極的な摂取を支援する

・ 五つの「キーワード」

「安全・安心」/ 「健康」/ 「おいしさ」/ 「楽しさ」/ 「簡単さ」

★ 「高齢者向け素材セミナー」の開催

《日時/場所》 11月15日(金) 12:30~17:00
グランド・プリンスホテル高輪B1

Ⅲ. 新中期経営計画策定の考え方

新中期経営計画(2014～16年) 策定に向けて

☆グローバル経営、技術経営、サステナブル経営の加速・推進

☆将来の「ありたい姿」「あるべき姿」から 今後3カ年の新中期計画を考える

○2030年の「ありたい姿」

- ・社会的価値の高い企業、世界のリーディングカンパニー へ
- ・売上高 5,000億円、営業利益500億円



○2020年の「あるべき姿」

- ・アジア向け製菓・製パン事業
- ・大豆新規事業
- ・健康新事業に、積極投資

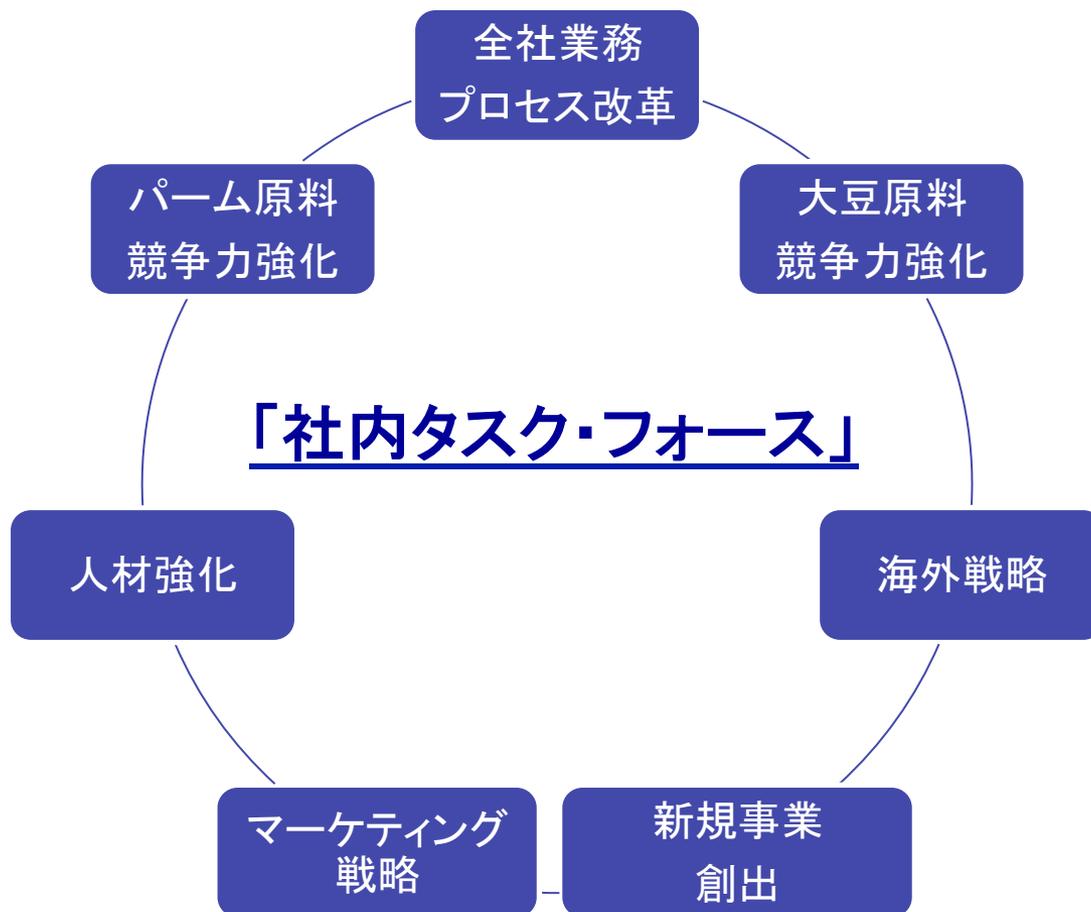


★「ルネサンス不二2016」(2014～16の新中期計画)

- ・「不断の革新を断行」
⇒創業の精神、原点を見つめ直し、新規事業創出
- ・「内部で自己変革できる」
⇒国内外の外部環境の変化に柔軟に対応

新中期経営計画(2014～16年) 策定に向けて

重要テーマの方向性を議論し、提言
年内に社内で7つのタスク・フォーネスで、



モットー

『清く正しく、明るく元気に！』

二つとない、をつくる。



※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想は現時点で入手可能な情報に基づいておりますが、
実際の数値は今後様々な要因により、予想数値と異なる可能性があります。